

広田っ子

～本物の笑顔が輝く広田小～

佐世保市立広田小学校 学校だより
第5号 令和5年9月4日(月)
文責 井上 文典

「本物の笑顔」に簡単アクセス

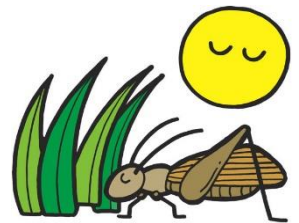
広田小HP QRコード



9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続いています。子どもたちの体調を一番に考えながら、2学期をスタートしています。

8月29日の始業式の日、玄関前で子どもたちを迎えていると、作品などを大切に抱え、汗を拭きながら登校してきました。元気な挨拶に加え「あと少し夏休みやったらな～」と心の様子を正直に話してくれる子もいました。安心して自分の心を開き、話をしてくれたことをとても嬉しく思いました。

最初から「エンジン全開！」とはいきません。一つ一つ心と体を慣らしながら時間を進めていきます。2学期もよろしくお願いします。



始業式 校長講話 「豊かな『ことば』は、ワクワクにつながります」

(一部抜粋)

暑い日が続いていますが、今朝は、セミではなく、別の虫の声を聴きました。たぶんコオロギの声だったように思います。少しずつ季節は変わってきていますね。

さて、今、私は虫の声という言い方をしました。よく考えてみると、虫の声という言い方は、とっても豊かな表現だなと気づきます。

虫が出す音を「虫の声」と表現するのは、私たち日本人や一部の国の人たちだけのようです。この表現には、虫のことを人間に置き換えて考え、虫であってもそこに大切な命があるんだ、自然も大切なんだ、という心を感じさせられます。

私たちが使う日本語には、とても豊かな表現がたくさんあります。言葉から命を感じ、相手の気持ちを感じ、小さな事をしっかりとみつめ、それを言葉にして、日々の生活の中にワクワクを見つけてきたんだなと思います。

今日、皆さんに一番伝えたいことは「豊かなことばをつかおう」です。

言葉は人の心をつくっていきます。私は「1学期にワクワクする学校をつくるよ」と言いました。2学期はこの「ワクワク」をさらに本物にしていきます。そのために、まず言葉を大切にしていきます。

例えば、食事の後に、何がおいしかった、どんなところがおいしかったと言葉で伝えられたら、作った人も嬉しくなります。そして、次はもっとおいしいもの作ろうとワクワクします。友達と遊んだ時、楽しかったら、どんなことが楽しかったのか、そして、楽しかったね、また遊ぼうねと伝えると、自分も友達も、次の日のことを考えるとやっぱりワクワクします。勉強も同じです。何ができるようになったのか、どんなところが難しかったか、わかるようになったのか、わかるようになってどんな気持ちなのかを表現できると、自分もワクワクしますし、それを聞いた先生方はとっても嬉しくなります。

豊かな言葉は、豊かな未来をつくります。前向きな言葉は、前向きに進む心を育ててくれます。

2学期のワクワクは、まず言葉を大切にすることから始めます。みんなで言葉を豊かにし、ワクワクを育てていきましょう。

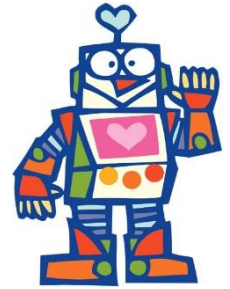
9月17日（日）は6年生の体育大会（中学校）です

2学期最初の大きな行事として、6年生の体育大会があります。中学校校舎での体育大会では「自ら気づく」「自ら考える」「自ら行動する」という自立へ近づいている姿を見ることができます。特に、中学校の先輩が、指示や号令で素早く動く姿や、高い意識と工夫された応援の姿を見て、めざすべき姿や方向性について学ぶことは大きな成長につながっています。

練習の時間帯や、体育大会当日の競技等の順番等については、6年生の体力、体調面に配慮した計画になっています。熱中症対策のための制限はありますが、時間を効率的に使い、広田小6年生らしい体育大会にしていきます。応援よろしく願いいたします。

夏休みの作品展から

今年も夏休みの作品展にはずらりと力作が並んでいます。絵画や書道は個性を生かしながら伸び伸びと作品に臨んだ姿を想像させられます。工作や手芸では、自由な発想でアイデアを考えたり、親子で共に汗をかきながら製作したりする等、かけがえのない思い出になったのではないかなと思わせる作品もたくさんありました。科学作品では継続観察を粘り強く行い、レポートとしてまとめるとともに、自分なりの考察や感想をしっかりと表現したものがたくさんありました。



子どもたちの中には「途中で終わった」「うまくいかなかった」という話をしてくれる子もいます。しかし、途中で終わっても、しないよりはずっとましです。また、うまくいかなかったことこそ学びの種があります。だから「うまくいかなかった」とまとめていいんだと思います。ただし…ここからがカギです。「失敗」は次へ向かうデータです。失敗したことをマイナスととらえることこそがマイナスです。「できない」「足りない」「難しい」「わからない」等のことがあるから学ぶのであり、助け合うのだと思います。

夏休みの作品には、子どもたちが体験から学ぶ、失敗から学ぶという「探求してく学習」のヒントがたくさんあります。ぜひ、ご来校いただき、子どもたちの探求の様子を想像しながらご覧ください。



本物の笑顔のために

「挨」「拶」（あいさつ）



「挨」には、押すという意味があります。

「拶」には、近づくとか進むという意味があります。

「挨拶」とは本来、押して近づくという意味で、禅宗のお坊さんたちの間で出会ったとき相手がどんなお坊さんなのか、さぐるために問答するときのことを表す言葉だったようです。

あいさつは相手がどんな人なのか、ファーストインプレッション（第一印象）としても大切です。さらに、もともとの語源から考えると「挨」が押すという意味であることから、自分からあいさつをすることが大切であるように思います。相手に押されて挨拶をするよりも、自分から心を開き、あいさつをする方が自己有用感、自己効力感も高まり、他者との関係においても心が晴れやかな状態をつくっていきけるようにも感じます。

「あいさつ」ができる子に！ 形と共に、その理由も子どもたちに語っていきたいと思います。

運動会（１～５年生）はホームグラウンド（広田小）で実施します

すでにご案内の通り、今年の運動会は10月15日（日）午前に実施いたします。

昨年度「ホームグラウンド運動会」という合言葉のもと、17年ぶりに広田小学校の運動場で実施いたしました。これまでの東部グラウンドでの運動会は、広く伸び伸びとした環境のもと子どもたちが精一杯頑張った姿とともに、学校の歴史の中に刻まれています。そして、昨年度からの「ホームグラウンド運動会」はこれまでのすべての実績を土台として、誇りを胸にチャレンジさせていただいています。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、素晴らしい運動会となり、そして、何よりも子どもたちが、慣れ親しんだ運動場で安心、安全のもと精一杯頑張り、笑顔が輝いた運動会になったことを本当に嬉しく思っている所存です。

今、社会では「学校の過剰な多忙感」が話題になっており、8月29日には文部科学大臣からも強いメッセージが出されました。本校においては、昨年度から保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力のもと具体的な対策を立て、子どもたちの「本物の笑顔」につながるよう、様々な面から改善をしているところです。そのような中「午前開催の運動会」は熱中症対策も含め、新しい教育課程の在り方の旗印となっています。

「ホームグラウンド運動会」「午前開催の運動会」は子どもたちを適切な負荷の中で鍛えることができることに加え、限られた時間、条件の中で、子どもも教師も優先順位を意識し、工夫して活動する習慣等、学校の教育活動全体へ良い影響が出ています。今年も、子どもたちが精一杯、競技、応援ができるよう工夫しながら準備をまいります。



なお、保護者の皆様、地域の皆様へはあらためてご案内をいたします。昨年度よりも参観して

いただける人数は増やしたいと考えておりますが、感染症の点に加え、受け入れるキャパシティの課題もありますので入場を制限させていただく点はご了承ください。

本校の運動会について何卒、ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。